

「自治体シンクタンクの課題と今後の活動の方向性」 グループディスカッション実施内容について

1. 実施概要

(1) 目的・ねらい

- ・自治体シンクタンクとしての現在の活動における**問題点や悩みなどを共有**し意見交換を行う。
- ・課題を踏まえた自治体シンクタンクの**今後の活動の方向性について議論**する。
- ・我が国における一般的な**市民討議会の実施手法を実体験していただく**機会とする。

(2) 実施概要

- ・参加者の主体的な進行によるグループディスカッション形式により実施する。
- ・グループごとの議論の結果は、発表により参加者全体で共有するとともに、共感できる活動の方向性について投票を行う。

2. 実施方法・手順

<タイムテーブル（目安）>

開始時刻	所要時間(分)	プログラム
10:05	8	挨拶・討議手順の説明
10:13	2	役割分担の決定
10:15	8	自己紹介
10:23	5	論点の洗い出し（個人ワーク） 現在の活動における問題点や悩み、対応すべき研究課題などについて
10:28	8	個人ワーク結果のグループ内での共有（各2分程度）
10:36	15	問題点、悩み、課題のKJ法による論点整理（グループワーク）
10:51	20	問題点、悩み、課題の解決に向けた今後の活動の方向性に関する意見交換
11:11	12	ジグソーセッション（他グループの方との意見交換） ・自グループで議論の概要紹介（各2分程度） ・自由討議
11:23	12	・ジグソーセッションでの議論の概要紹介（各1分程度） ・表用シートによる意見とりまとめ
11:35	17	発表・共有（発表各班2分、計12、質疑5分）
11:52	8	投票・結果の共有

(1) 役割分担の決定

- ・グループ内でまず進行係兼タイムキーパー、書記、発表係を決定していただきます。
- ・以降はそれぞれの役割分担にそって、皆さんで議論を進めていただきます。

(2) 自己紹介等

- 各メンバーから、簡単な自己紹介をお願いします（各2分）。

(3) 論点の洗い出し（個人ワーク）

- 各自で、各団体の「現在の活動における問題点や悩み、対応すべき研究課題などについて」、付箋に記入してください（5分）。

「問題点や悩み、対応すべき研究課題など」は研究活動に係ることだけでなく、組織の位置付けや役割、認知度、組織体制や人材を含むリソースの確保など、どのようなことでも結構です。他団体の方の意見を参考にしたい悩みや困りごとがあれば、遠慮なく問題提起してください。

【付箋に記入する場合の注意事項】

- 付箋は論点ごとに一枚記載してください（一つの付箋に論点は一つだけ）
- 簡潔な文章、あるいはキーワードで、読みやすい大きめの文字で記載してください

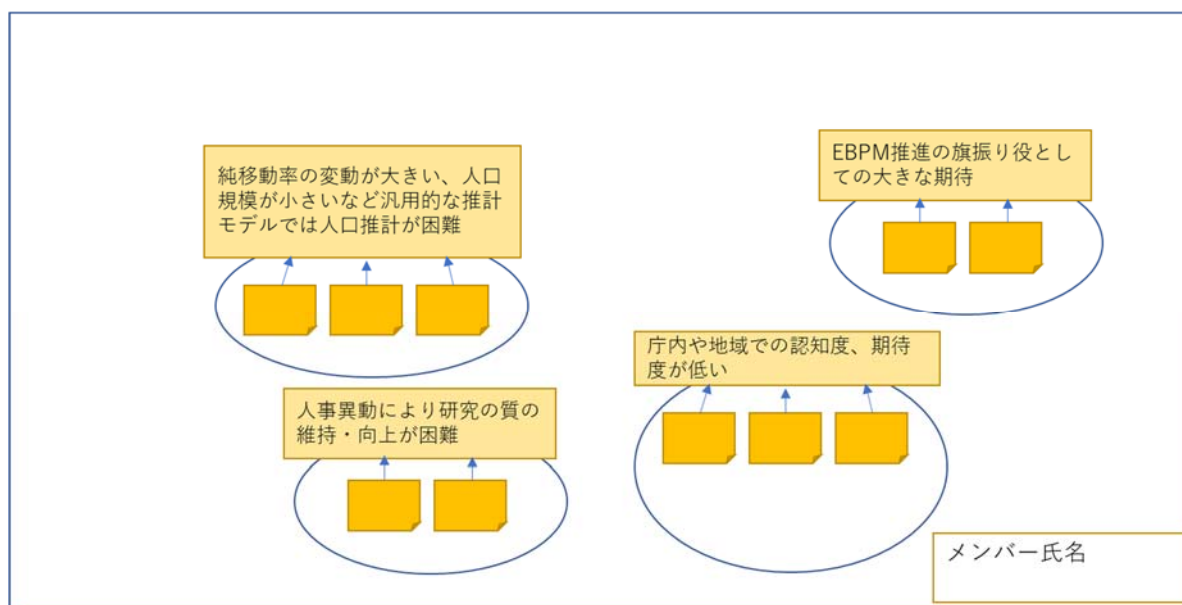
(4) 個人ワーク結果の共有と問題点、悩み、課題の KJ 法による論点整理（グループワーク）

- 個人ワークの結果を一人ずつ共有（各2分）し、KJ法により自治体シンクタンクとしての問題点、悩み、課題の論点整理をしてください。（20分）

※ワーク（5）で対応策を記載するため、適宜余白を確保して整理してください。

※模造紙にメンバーの氏名を記入してください。

< (4) のグループワークのとりまとめのイメージ >

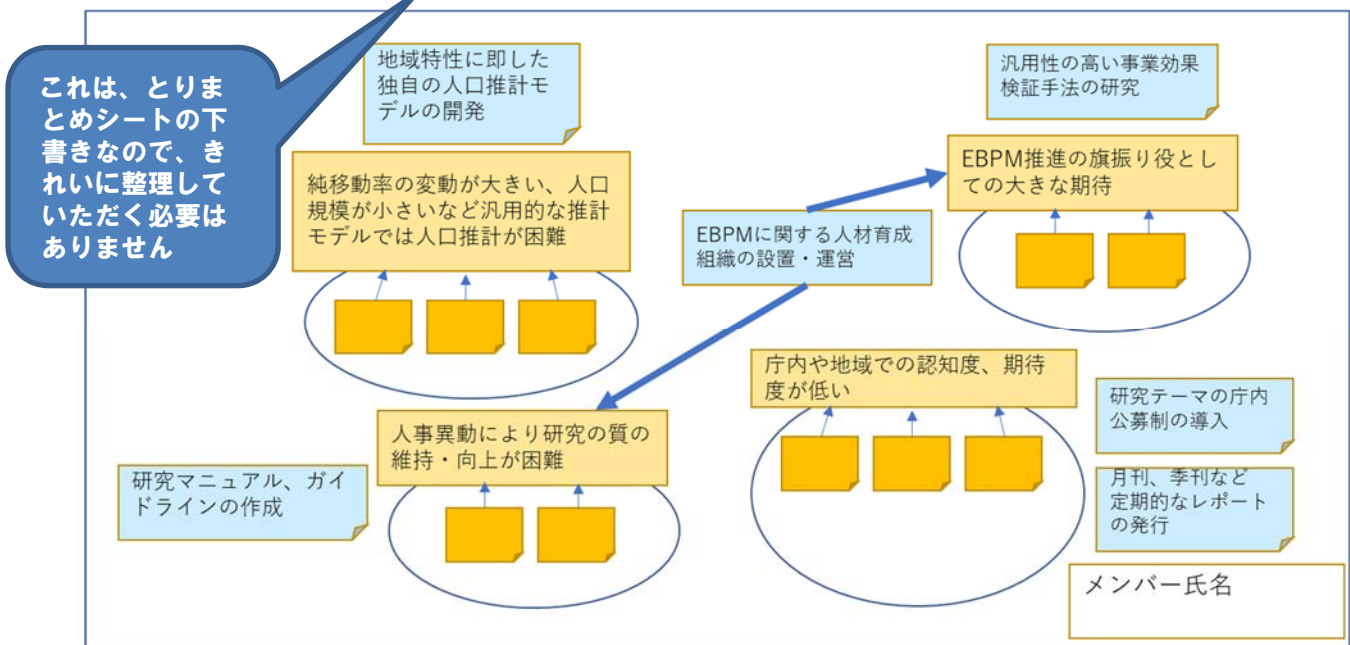


(5) 問題点、悩み、課題の解決に向けた今後の活動の方向性に関する意見交換（グループワーク）

- (4) で整理した問題点、悩み、課題のうち、特に重要なものについて、その解決に向けた今後の活動の方向性について議論してください。

- ・書記係はメンバーの意見のキーワードを（４）で整理した**問題点、悩み、課題の論点の周辺に直接記載するか、付箋にメモして貼り付ける**など記録してください（20分）。

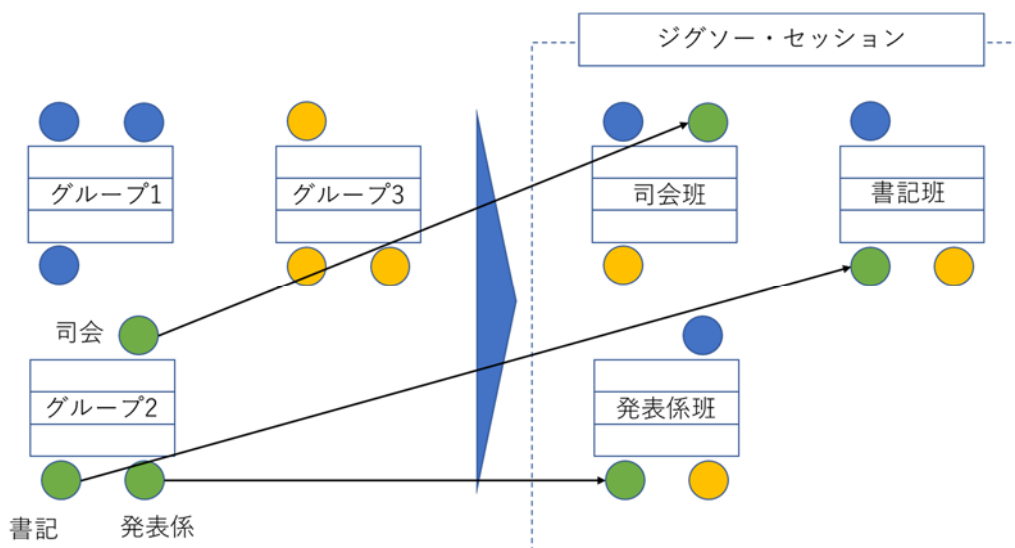
＜（５）のグループワークのとりまとめのイメージ＞



（６）ジグソー・セッション（意見交換）

- ・ここで、グループを組み替え、他のグループの方と意見交換をしていただきます。
- ・自グループの議論の結果を、他のグループの方にご紹介してください（各2分程度）。
- ・時間の許す限り、自由に意見交換してください。
- ・意見交換の中で、印象に残った論点をメモして、自グループに持ち帰ってください。

＜ジグソー・セッションのグループ再編のイメージ＞



(7) 発表用シートによる意見のとりまとめ（グループワーク）

- ・ジグソー・セッションで印象に残った論点を自グループのメンバーに紹介してください。
- ・（5）までの討議結果に、（6）の意見交換で得た気づきも適宜反映し、自治体シンクタンクが取り組むべき今後の活動の方向性として「**特に重要と考える事項3つ**」を「グループの総意として決定」し、とりまとめシートに記載してください。
- ・**結論を明確にして合意形成することが市民討議会方式の重要なポイント**です。かならず3つまでに絞り込んでください。
- ・ジグソー・セッションの実施により、議論が深まる反面、情報共有により提案の類似性が高まる傾向があります。各グループの議論の特性が明確になるようにできるだけ具体的に記載して下さい。
- ・対応する活動の方向性が見いだされなかった課題等のうち、特に重要なものは、欄外の「その他の問題点、悩み、課題」の欄に記載してください。

< (6) のグループワークのとりまとめのイメージ >

グループ No		メンバー氏名	
問題点、悩み、課題の解決に向けた今後の活動の方向性			
<p>汎用性の高い事業効果検証手法の研究</p> <p>EBPM描述の旗振り役としての大きな期待</p> <p>に関する人材育成 設置・運営</p> <p>庁内や地域での認知度、期待度が低い</p> <p>研究テーマの庁内公募制の導入</p> <p>月刊、季刊など定期的なレポートの発行</p> <p>メンバー氏名</p>	問題点、悩み、課題	EBPM推進の旗振り役としての大きな期待	
	方向性	汎用性の高い事業効果検証手法の研究	
	問題点、悩み、課題	庁内や地域での認知度、期待度が低い	
II	方向性	月刊、季刊など定期的なレポートの発行	
III	問題点、悩み、課題		
	方向性		
その他の問題点、悩み、課題			

(8) 発表、共有、投票

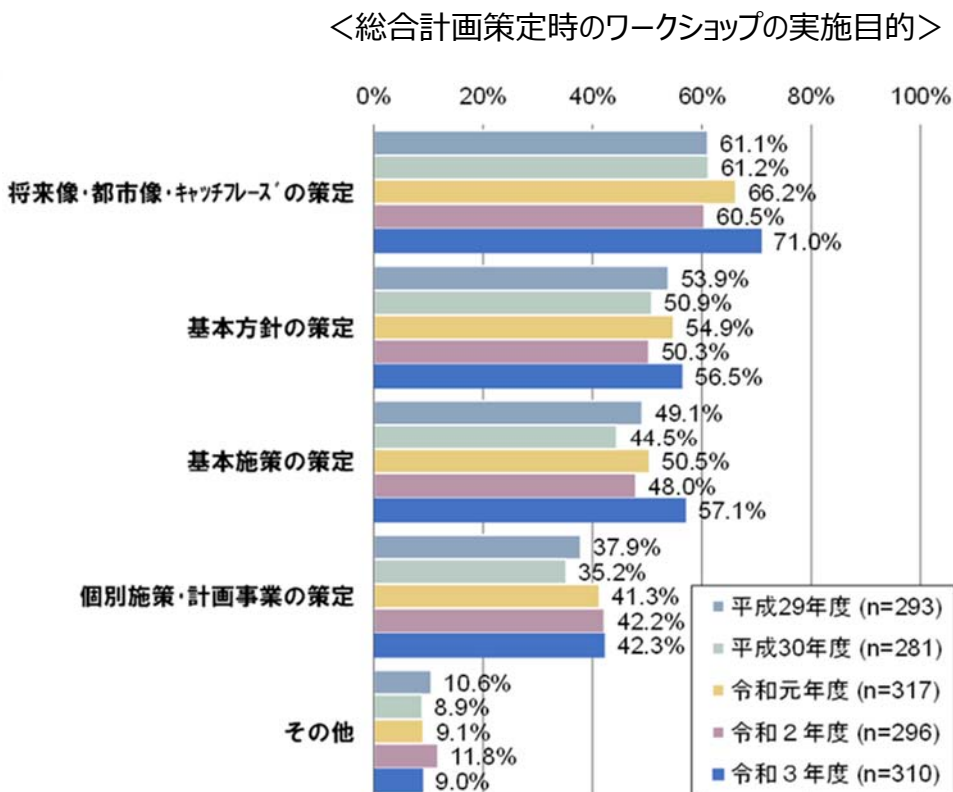
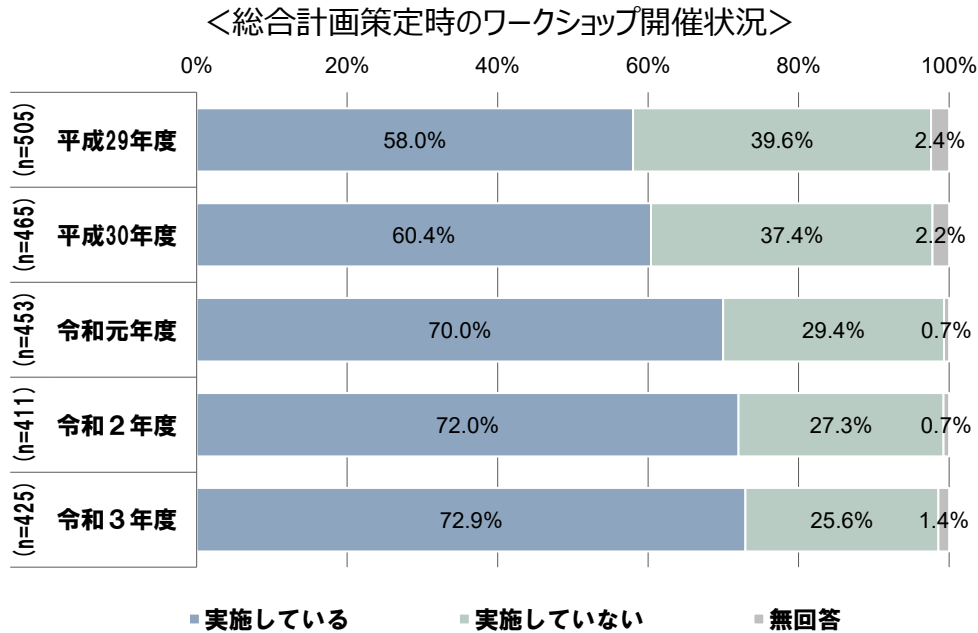
- ・会議全体でグループワークの結果を発表・共有していただきます。(各班2分)。
- ・提案された個々の方向性について、一人3票をもち、参加者全員で投票を行います。この際、ご自分の班の提案への投票は1票までとしてください。

以上

【参考資料】 市民ワークショップの概要と一般的な実施例

(1) 実施状況

施策や事業の検討への市民参加手法としてワークショップは広く普及しており、総合計画策定時にワークショップを実施する団体は既に7割を超えている。



調査対象：全都道府県及び市区、回収率 49.3%

資料) 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 自治体経営改革室「自治体経営に関する実態調査報告」(令和4年7月)

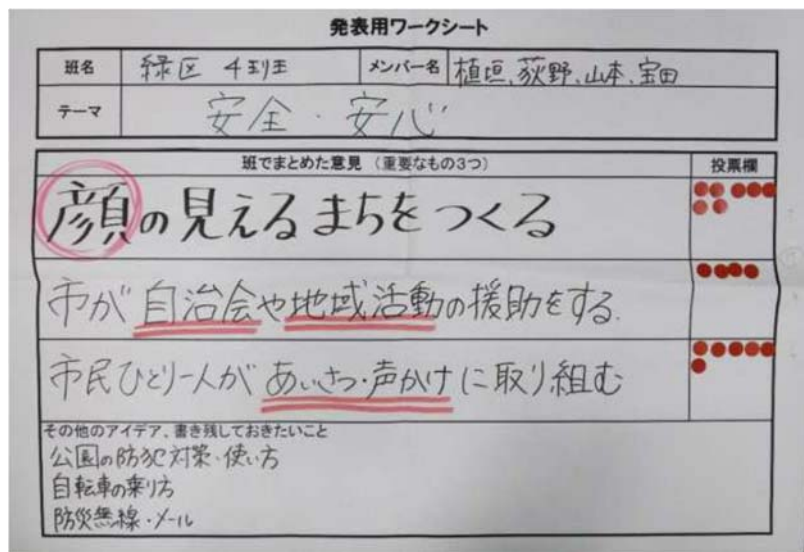
(2) 具体例

①市民討議会方式（今回これを皆さんに体験していただきました）

＜プランクスツェレの手法を援用した市民討議会の例（相模原市）＞

- 参加者：無作為抽出（18 歳以上）4,000 名のうち参加申込みのあった 96 名から 84 名を選出（出席 72 名）
- 開催日：平成 30 年 8 月 18・19 日（10 時～17 時）
- 討議テーマ：基本計画の分野ごとに課題と解決に向けて取り組むべきことを討議
- 手法の特徴：参加者の主体的な議論により、グループごとに意見の集約を図り、これを全体で投票することで会議体としての総意（優先順位）を明確にできる。

■ 成果イメージ



＜「安全・安心」緑区 意見まとめ＞

キーワード	班	班でまとめた意見	票数	合計
道路環境の改善	緑区 1 班	歩行者、自転車利用者にやさしいまちづくり	9	14
	緑区 2 班	地域や時代に応じた環境整備	1	
	緑区 3 班	防犯カメラの路地から大通りの角への設置の推進をする（自治会を通して）	4	
災害への対応力の強化	緑区 1 班	防災情報の周知と避難設備の整備（例 体育館の空調）	3	14
	緑区 3 班	災害時における高齢者の孤立化に対して有志グループの見守り	2	
	緑区 3 班	広域避難所へのトイレの設置と飲料水の確保（教育委員会）（水道局）	9	
自助・共助による安全・安心の確保	緑区 1 班	増加する空き家の活用（例 シェアハウス化）	3	29
	緑区 2 班	地域のつながりと再構築	3	
	緑区 2 班	一人ひとりの意識改革	6	
	緑区 4 班	顔の見えるまちをつくる	7	
	緑区 4 班	市が自治会や地域活動の援助をする	4	
	緑区 4 班	市民一人ひとりがあいさつ・声かけに取り組む	6	

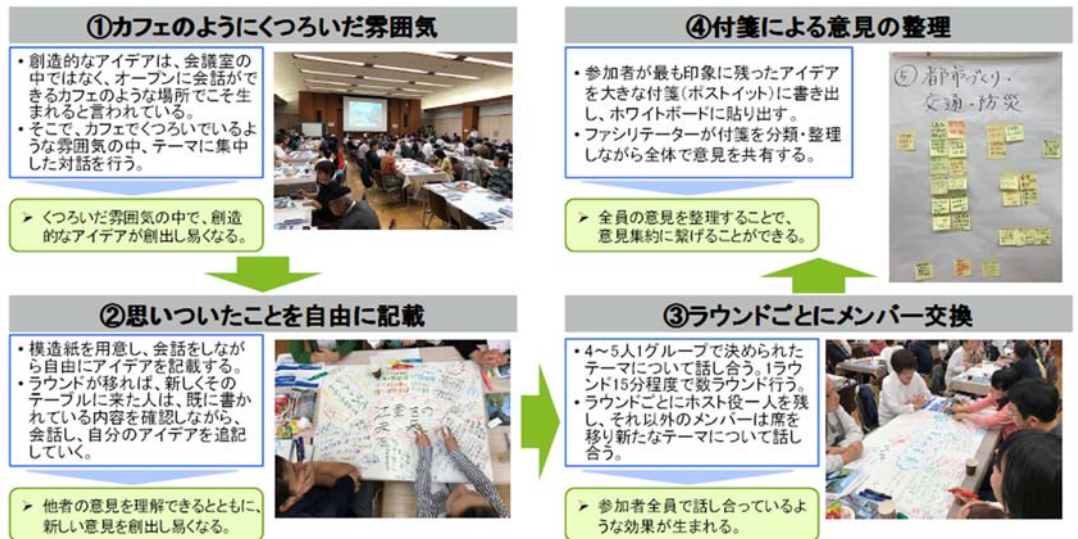
資料) 相模原市「新しい総合計画策定のための区民討議会 報告書 平成 30 年 10 月」

②ワールドカフェ方式

＜ワールドカフェの手法を援用したワークショップの例（江東区）＞

- 参加者：81名（①無作為抽出法により区内2,000人に案内状を送付、②江東区報、区ホームページ等により公募）
- 開催日：平成30年10月13日（土）13時～16時
- 討議テーマ：新たな総合計画の各施策のあるべき姿の検討や施策立案への意見
- 手法の特徴：小グループで何度もメンバーを変えながら対話を重ねて意見を出し合うため、最も多様な意見の抽出が可能な手法。ただし、参加者による意見集約はできない。
- 実施と成果イメージ

■ 「ワールドカフェ」とは、ワークショップの手法の一つであり創造的なアイデアを生み出すための対話の手法です。参加者はカフェテーブルのような小グループに分かれ、度々メンバーを替えながら対話を重ねる(ラウンド制)ことで、参加者全員が考えや知識を共有しているような雰囲気生まれ、創造的なアイデアにつながる事が期待できます。



第2章 区民意見
2-2. 第3ラウンドの意見 ②子育て・教育

■ 「子育て・教育」については、地域で子どもを育てるまち、子育て施設の充実に関する意見がありました。

全ての意見		意見概要
#	意見分類	個別意見(原文)
1	子育て	子育て世帯が安心して住める街に
2		各小学校区にワーカーとその他関係者によるケースワーカー(子供が成人するまで)のシエン事業拠点を
3		子育てがしやすいまち
4		子供についてのあらゆるテーマをサポートする拠点づくり(虐待、学習、給)
5		子育て世代も移動がしやすい街(ベビーカー、電動自転車)
6		安心・安全に楽しく、住民みんなが子育てできるまち
7		子ども多量に預けられる街
8		子供の遊べる場所を増やす
9		自由に遊べるまち
10		江東区の環境を活かした、例えば渋谷区等に見られる「常設プレイパーク」を設置できる街
11	地域の人手で子どもを育てる街	
12	地域で人(子)を育てる街	
13	10年後嬉しい保育と教育	
14	専門知識(カウンセラーなど)を	
15	駅近の保育園の充実	
16	図書館・児童館の役割を増やし、時間延長されている	
17	犯罪のない街で安心して住める、お互いが声を掛け合えることで子供たちが安心する	
18	子供達の住みやすい街になる事、学校地域環境よくする	
19	子供達の学び(みずへの音楽・社会で子育て・区民大学活用)	
20	子供のケイタイは中学まで使用キケン!	
21	子供の未来を考えた街か?	
22	教育	江東区民の大学(人生百年時代・生涯教育・多世代交流・人生マルチ時代)
23	子供を多く生む教育を!	

✓ 子育て世帯が安心して住めるまち

✓ 地域で子どもを育てるまち

✓ 保育園等の子育て施設が充実しているまち

✓ 子どもたちが住みやすいまち

資料) 江東区「第1回区民会議江東ワールドカフェ実施報告書」

③懇談会方式

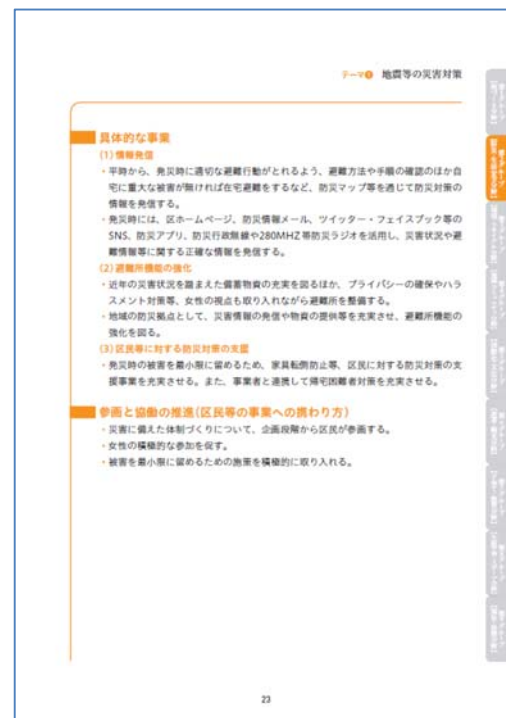
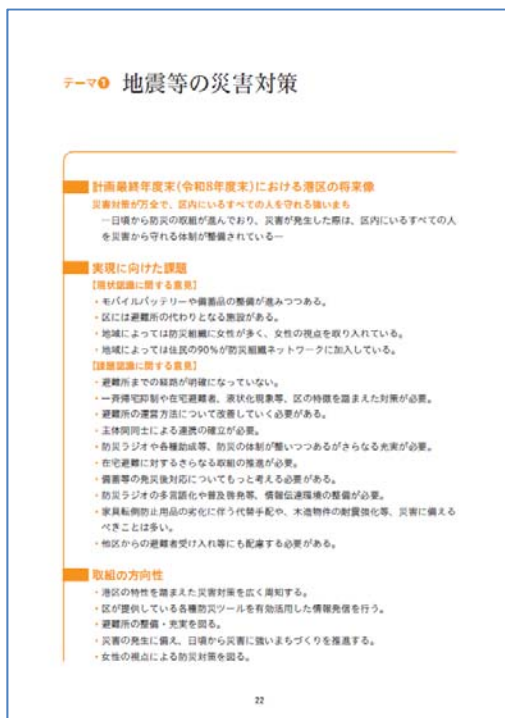
<懇談会方式の例（港区）>

- 参加者：75名（①無作為抽出法により区内1,600人に案内状を送付、②港区報、区ホームページ等により公募）
- 開催日：全体会 令和元年9月4日 18時30分～20時30分
グループ会議※ 令和元年9月～令和2年2月 平日夜間
- ※街づくり、子育てなど9つのテーマに分かれて、それぞれ8回程度実施する。区民のありのままの意見を尊重する一方、会議の進行やとりまとめは主として事務局が担っている。
- 討議テーマ：次期基本計画策定に向けて、分野ごとに区政の課題と解決の方向性を討議
- 手法の特徴：**分科会ごとに事務局が進行、とりまとめを担うことにより、円滑な会議運営と成果の質・量の統一性が担保される。**

■成果イメージ



▶提言書の例（防災・生活安全分野）



資料）みなとタウンフォーラム「港区基本計画策定に向けた提言書」（令和2年3月）